



## 国総研研究報告第 77 号

# 「2024 年能登半島地震津波における飯田港の短周期波の再現：分散性評価および数値モデル選定の重要性」を刊行します

2024 年能登半島地震津波で飯田港に到来した短周期波について、複数の断層モデルと分散性の異なる数値計算を用い、その生成・伝播過程を検証しました。その結果、短周期波がソリトン分裂による波状段波として説明できること、ならびに大水深域での分散性が短周期波の到達時刻や波峰位置の再現に重要であることを示しました。本研究報告は、波状段波の発生条件や伝播特性を理解し、耐津波設計における数値計算手法を検討するための基礎的な知見をまとめたものです。

### <目次>

- 第 1 章 はじめに
- 第 2 章 数値モデルおよび計算条件
- 第 3 章 断層モデルの評価
- 第 4 章 飯田港に到達した津波の詳細解析
- 第 5 章 考察
- 第 6 章 結論

本資料は、国総研ホームページで公開しています。

ダウンロード先 URL : <https://www.ysk.nilim.go.jp/kenkyuseika/pdf/kh0077.pdf>

### (問い合わせ先)

国土技術政策総合研究所 港湾・沿岸海洋研究部 港湾・沿岸防災研究室

主任研究官 千田 優 (内線：3221)

TEL：046-844-5019

E-mail: [ysk.nil-46pr@gxb.mlit.go.jp](mailto:ysk.nil-46pr@gxb.mlit.go.jp)